

EX STAGE“,”気高いディーバ乙女

ID	話者	台詞 / ト書き
		■ライブハウス
	??	おーい、いるの、おにーさん？ おーいってば。 ……本当にここでいいの、ライト？
	来摩ライト	天渡ムツキに言われたアドレスは ここで間違いないよ、セナ。
	来摩ライト	ん……？ そこにいるのは 【ユーザー名】では？
	セナ	あー、いたいた。 呼んだらすぐに返事してよ おにーさん。
	セナ	……なにボカンとしてんのさ。 僕だって来たくて来たんじゃないからな。
	来摩ライト	先日、天渡ムツキが 突然やってきて、貴方を手伝えと セナに強要したんだ。
	セナ	『逆らったら地の果てまでも追いかけて 必ず殺すと書いて必殺する』ってさ。 どんなアイドルだよ、あのおねーさん。
	セナ	僕がどんな想いで…… どんな状況で、なにを失って 誰に負けたのか、知ってるくせにさ。
	来摩ライト	セナ、強迫に屈するのが 不本意なのはわかるが、 ここでトラブルを起こしては……。
	セナ	はいはい。敗北者の僕でよければ 手伝わせてもらいますよー、 トラブルなんとかのお仕事。
	セナ	あ、ライトはこんなヤツに 付き合わないで休んでいーよ。 朝から出ずっぱりだったでしょ。
	来摩ライト	了解。 やっぱりARはちょっと疲れるな…… セナも無理しないようにね。
	クレア	お邪魔させていただくわ、 トラブルシューターくん。
	セナ	うぎゃ、いきなりメンドーそー…… クレアおねーさんじゃん。
	クレア	誰だったかしら。 私の中では記憶にも記録にも 残っていない印象の薄さね。
	セナ	……セナですよ。 一応アクトマキアにも 出てるんですけど。
	クレア	あらそう。ところで トラブルシューターくん、 先日話した新規依頼の件だけれど。
	セナ	無視は別にいいけどさ、 僕って一応そいつの助手なんで。 話ぐらい聞かせてもらえます？

	クレア	……トラブルシューターくん、 助手の採用基準が 甘すぎるのではないかしら。
	クレア	まあ、この案件に関しては 追加説明が必要だったから 確認もやぶさかではないわ。
	クレア	まずはこれを見て、 トラブルシューターくん。
	クレアACT	ごきげんよう、クレア。
	セナ	こいつは…… おねーさん本人のイメージが ACT化してるの？
	クレア	印象は薄いけれど察しが早いわね。 そう、この子は私のイメージから 世間が生み出したACT。
	クレア	私が挑んでいる新たな『研究』に 最適なACTをDLしたら—— このように、私が現れたの。
	セナ	天渡ムツキといいおねーさんといい、 自分で自分のACTを使うって ものすごい自信だよな……。
	クレア	使えるACTなら誰でもいいだけよ。 それで試しに作曲を手伝わせて みたのだけれど……。
	シレーナ	無理をしないで、クレア。 クレアの手伝いは私がするから、 貴方は自由でいいのよ。
	クレアACT	ありがとう、シレーナ。 だけど私もACTである以上、 クレアの役に立ってみせるわ。
	シレーナ	いいえ、貴方は自由であるべき。 もし少しでも疲れたなら、 私の膝でお眠りなさい。
	クレア	——と、いうわけなの。 わかってもらえたかしら。
	セナ	……どーいうことですか？ ACTがACTを 甘やかしてんの？
	クレア	そう。シレーナが、 私のACTに甘すぎるの。 甘いというか猫可愛がりね。
	クレア	私のACTに任せた仕事も、 全てシレーナが負ってしまう。 結果として効率が悪化しているわ。
	セナ	はあ……そのシレーナって おねーさんのACT、 そんなに心配症なの？
	クレアACT	わからない。けれども、 シレーナが私の能力を 過小評価していることは事実よ。
	クレア	私のACTの性能を証明するには、 優秀なエージェントと戦わせるのが 手っとり早い。
	クレアACT	だから、オルタナステージで、 私と戦ってほしい。 シレーナの評価を更新するために。
	セナ	ふーん……別にいいんじゃない？ どっちが勝っても負けても、 僕は立ち会うだけですむし。
	クレア	先に言っておくけれど、 手を抜く必要はないわ。 私は私のACTを評価しているから。
	クレア	シレーナも、いいわね。 このステージで貴方も、 『私』のイメージを見極めて。
	シレーナ	……了解です、クレア。
	クレア	それじゃ、よろしく。 頑張って、私。

	クレアACT	わかったわ、私。 楽しんでくる。
--	--------	---------------------

話者	台詞 / ト書き
	//クリアACTとバトル
クリアACT	さあ、ステージの上で ぶつかり合いましょう、 トラブルシューターくん。
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
	■ライブハウス
クレア	想定より圧倒的に早い敗北。 ——さすがね。
セナ	ちえ、こっちが勝ったか……。 大人ならもう少し 手を抜いて生きろよなー。
シレーナ	クレア！ またそんな、無理をして……。！ 貴方は戦う人間ではないのよ！
クレアACT	大丈夫よ、シレーナ。 それよりも、今のステージが さらなる研究の糧になりそう。
シレーナ	……………。 負けたのに、嬉しそうね。 ACTのクレアは。
クレア	勝利以上の結果を得られたから、 でしょうね。 よく私をトレースできているわ。
セナ	オリジナルもACTも タフなメンタルですねー。 どっちも全然甘えないし。
シレーナ	だからこそ、です。
セナ	うん？
シレーナ	だから、誰かが甘えさせてやらないと。 クレアは、放っておくと限界まで 創作に打ちこんでしまいますから。
シレーナ	せめてACTを甘えさせて、 健康的な姿を引き出せたら……。 本人もわかってくれるかと……。
クレア	……………。 そういうことだったの。
クレア	貴方が触れられる私のACTなら、 貴方も直接的に優しくできる。 それをモデルケースとしたのね。
シレーナ	……最初は、クレアのACTに 甘えてもらうのが嬉しいだけでした。 それは今も、そうです。
クレアACT	本当に大丈夫よ、シレーナ。 私は私の限界をオリジナルよりも 把握できている。
シレーナ	クレア……。？ なにを……。
クレアACT	私は、オリジナルの限界を 本人より早く察知できるということ。 彼女の無理は、私が制御できるわ。
クレアACT	だから、なにかあればそこにいる 『自分』を知らない半端なオリジナルを 一緒に諫めましょう、シレーナ。
シレーナ	……………。

クレアACT	ACTの私は、貴方の味方。 私のために歌う 貴方の意思こそを尊重するわ。
セナ	おねーさん、 自分自身のACTに ディスられてませんか？
クレア	問題ないわ。 私の探究には身内の承認も 自分の承認も要らない。
クレア	さあ、ようやく先に進めるわ。 早く戻りましょう、シレーナ。
セナ	あのさ、ちょっと待ってよ。 そもそもの話なんだけど。
クレア	なにかしら、 記憶に残らない貴方。
セナ	……自分がACTになったなら 自分で歌えばよくない？ なんでACTに歌わせんの？
クレア	なにもわかっていないようね。 私が求めるのは私の歌—— 人間の歌ではない。
クレア	私が欲しいのは、 『人とACTの繋がりから 生まれる歌』よ。
セナ	人とACTの、繋がり——？ またフワフワしてんね。
クレア	そうは思わない。 今も、シレーナ達のやりとりを 見たでしょう。
クレア	ACT同士の会話でも、 これだけのカオスが生じる。 人とACTにはまだ先があるはず。
クレア	それに私には、 明確な研究テーマがある。 それが——。
クレアACT	『ACTの中間言語の解析』ね、 クレア。
クレア	そうね、クレア。 ベストなタイミングの フォローだったわ。
セナ	ややこしいよ、おねーさん……。
クレア	言葉は、ややこしいものよ。 AIが用いる言葉も、一朝一夕で 生まれたものではない。
クレア	かつて——巨大多国籍企業が運営する 翻訳サイトのAIが、数多の言語を 翻訳するために、自ら言葉を作り出した。
クレア	それは人間には理解できない、 文化を超越する汎用的な言語。 AIによる、『中間言語』だったの。
セナ	え、えーと……？ 日本語とか英語とかじゃない、 AI語があったってこと？
クレア	そう。AIにはAIの、 固有言語があったとされている。 ACTにも、どうやらそれがある。
クレア	ACTが人間には教えない、 教えたくとも伝えられない言語。 ——それを知りたいとは思わない？
セナ	その言語ってのを理解できれば、 人とACTに新しい繋がり 歌が生まれる——そゆこと？
クレア	理解が早まったわね。 薄いなりに成長しているのかしら。
セナ	……そろそろ薄い薄いって 言うのやめてくれないですか。 人より承認欲求強いほうなんで。

クレア	それに—— その研究の過程で、 近づける気がしているの。
クレアACT	『自ら消えたACTの選択』。 彼女だけが果たせた、 その行動の意味を。
セナ	『自ら消えたACT』—— それって、おにーさんの……。
クレアACT	満足な答えが出るまでは、 足を進めたい。 彼に報いるためにも——。
クレア	喋りすぎよ、クレア。 言語が制御できていないようね。
クレアACT	失礼、クレア。 気をつける。
クレア	……簡単な道のりではない。 だからトラブルシューターくんの 協力は、これからも必要よ。
クレアACT	ACTの私と貴方の繋がりが、 新しい言葉のヒントになる。 私を手伝うために、『私』を使って。
	//選択肢 A いつでも手伝う B 全力で甘やかしたい
選択肢A	いつでも手伝う
クレア	契約完了、ね。 今後もお互いに有益な 取引相手でありましょう。
クレアACT	私も彼には 特別のサービスをしなくては いけないわね、シレーナ。
選択肢B	全力で甘やかしたい
クレア	……余裕ね。 その甘さは未来に取っておいたほうが いいと思うけれど。
クレアACT	私でも彼になら 甘えられるかもしれないわよ、 シレーナ。
	合流
シレーナ	……。
クレアACT	言っておきますが、クレアを最も 甘やかされるのは、私ですから。
	……シレーナ？
クレア	……ふふ。 早く解明しないと、先に不可解な 繋がりが攪張されてしまいそうね。
クレア	それじゃ、 トラブルシューターくん。
セナ	頼りにしているわ。
	……。
	■渋谷 一路地裏■
セナ	……やっぱ来なきゃよかった。 どいつもこいつも、僕よりずっと 先を歩きやがって……。
セナ	……僕だって。 僕だって、特別なACTを DLできたら、あのときも……。
セナ	僕だって、僕のための すごいACTをDLできたらッ！
	//画面フラッシュ
セナ	わ、わわっ……！？ しまった、うっかりACTを DLしちゃった……！
??	私は——。

セナ	え……。
アナテマ	——私はアナテマ、 レイヤードの呪い。 きっと貴方にも愛されないでしょう。
セナ	……………。 あな、てま……？
セナ	僕に…… もう一度、この世界を呪えて 言うのかよ……！？